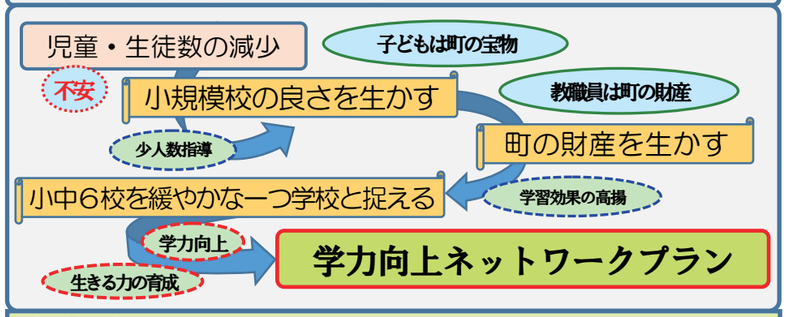
☆　学校教育ビジョンの策定

【川根本町学校教育ビジョン】(2015～)
「学力向上ネットワークプラン」～キャリア教育を基盤としたＲＧ授業～
町の未来を担う**「子どもたちは町の宝物」**、その学びを支える**「教職員は町の財産」**という本町の理念に基づいて、これまで行われてきた小規模校による個に応じたきめ細かな取組をさらに積極的に推進するため**「学力向上ネットワークプラン」**を構築する。



【ねらい】
◎子どもたちの「生きる力の育成」、「確かな学力」の育成
☆一人一人の自立に向けた「キャリア教育」の推進
☆小規模校の連携による効果的な学習形態の研究と実践（RG授業）

【キャリア教育】
一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す。

◎キャリア発達を促す個別支援
○キャリアノートの活用
○全校体制による組織的・計画的な取組

９年間の積み上げ

☆自己肯定感・自尊感情
☆学ぶ意欲・積極的な学習態度
☆個々の自立に必要なキャリア発達

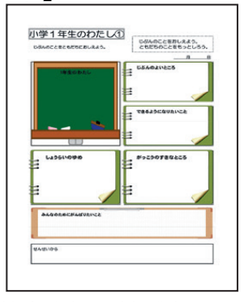
【ＲＧ授業】(学校間連携グループ授業)
学校間で、学習内容に応じて、より効果的な学習の場を創り出し、子どもたち一人一人に学力の定着を図る。

◎ＹＲＧ授業（横の連携グループ）
→学習内容や個々の習熟度によって、同校種間の連携で最適人数の授業を創出
◎ＴＲＧ授業（縦の連携グループ）
→小・中学校間の連携による高い学習効果をねらった授業・活動

子どもの交流　**教員の交流**　**施設利用**

☆基本的な学力の向上
☆豊かな人間性

【町独自のキャリアノート】



※平成 28 年３月策定の教育大綱に基づき、18 年間（0～18 歳）までのキャリアを線で結ぶ取組を実践する。

☆H30 エボリューション（進化・深化）のための具体策

【H30　重点とする取組】
☆付けたい力を明確にしたキャリア教育及び授業実践の展開
「なりたい自分」に向けた主体的活動をつなぐ「振り返り」の積み上げ
☆川根本町型問題解決学習の徹底（９年間の学びの継続）
（主体的で対話的で深い学びを創る基礎となる力の育成に向けた学習活動の工夫）
☆ＩＣＴ機器の効果的な活用と振り返りの時間の充実

【川根本町型問題解決学習】
か：かならず確認、学習のねらいと内容を確かめよう。
わ：わからないことをはっきりさせて、まずは自分でチャレンジしよう。
（主体的な学び）
ね：ねらいに向かい、みんなで考えを高め合い、深め合おう。
（対話的な学び）
ほん：ほんとうに“できたか”“わかったか”学習を振り返ろう。
（深い学び）
ちょう：ちょうせん、ちょうせん。新しい学びに進んで挑戦しよう。

子どもたちを学びのプロに！　９年間の継続した取組で学びのプロをつくる！

【ＲＧ授業の様子】

【合同研修会の様子】(H29 授業研＆H30 作業部会)

2018
川根本町学校教育ビジョン

川根本町教育委員会

平成 30 年度ＲＧ授業推進構想図

― 川根本町学力向上ネットワークプランの具現化のために ―

ＲＧ授業の検討（研修・学習指導担当）

1　川根本町の児童生徒に付けたい力

	キャリア発達の実現		
	問題解決力	コミュニケーション力	表現力
中学生	・友達と互いに考えを出し合い、問題を解決しようとした時、積極的に考えたり、自分の意見を主張したり、実験や資料などを使って検証したりすることができる。 ・自ら課題を見つけ、既習事項を新たな課題の解決に生かすことができる。	・相手の気持ちを考え、意図などを理解することができる。 ・学習の中で友達と相談したり、協力して活動したりすることができる。また、互いに助け合ったり声を掛け合ったりすることができる。	・自分の思いや考え、疑問点など、分からないことを教師や友達などに自分の言葉で表現することができる。 ・時と場に応じた適切な表現（話し言葉・文章・図・グラフ・絵・立体・ＩＣＴの活用……）をすることができる。
小5・6	・友達と考えを共有し、見通しをもって解決に向かう中で、自分の考えをさらによりよいものとして、主体的に問題を解決することができる。	・話し合いに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解することができる。 ・思いやりの気持ちを持ち、相手の立場になって考えて行動することができる。	・自分の考えや意見を言う時に、根拠や理由をはっきりさせて意欲的に発言することができる。 ・他者の表現の良さを取り入れることができる。
小3・4	・友達の考えのよさや違いに気付き、自分の考えを深めたり友達の考えを生かしたりしながら、主体的に問題を解決することができる。	・自分のよさや友達のよさに目を向け、互いに認め合うことができる。 ・友達の気持ちや考えを理解し、協力して学習や活動に取り組むことができる。	・自分の考えや思いを、理由付けて分かりやすく話すことができる。 ・他者の表現の良さを認めることができる。
小1・2	・自分の考えをもって友達と関わり合い、最後まであきらめずに学習に取り組むことで、主体的に問題を解決することができる。	・友達と仲良く学習し、助け合うことができる。 ・元気よくあいさつや返事をすることができる。	・自分の思いをみんなの前で話すことができる。 ・自分の思いや感じたことを伸び伸びと表現できる。

2　各校の研修テーマと「川根本町の児童生徒に付けたい力」との関連

【町内統一テーマ】 主体的・対話的で深い学びが実現する授業づくり
～川根本町型問題解決学習の実践と、効果的なICT機器の活用を目指して～

［川根本町型問題解決学習］
か：かならず確認、学習のねらいと内容を確かめよう。
わ：わからないことをはっきりさせて、まずは自分でチャレンジしよう。
ね：ねらいに向かい、みんなで考えを高め合い、深め合おう。
ほん：ほんとうに“できたか”“わかったか”学習を振り返ろう。
ちょう：ちょうせん、ちょうせん。新しい学びに進んで挑戦しよう。

学校名 ＼ 各校の重点事項 ／ 研修テーマ	つけたい力			問題解決力の5視点				
	問	コ	表	か	わ	ね	本	町
南部小	○			●		●		
対話的な学習で学びを深める授業づくり ～学びを深めるための手立ての追究～								
中央小	○			●		●		●
魅力ある課題を設定し、活用につながる学びを育む授業								
第一小		○			●	●	●	
みんなが夢中で考え、みんなでつなぐ授業 ～「考えながら聴く子」の育成～								
本川根小	○					●	●	
対話と思考を通した深い学びを目指して								
中川根中	○	○			●	●		
生徒が主体的に学ぶ授業づくり ～生徒と教師による「中中学びのスタイル」の共有と実践～								
本川根中	○			●		●	●	
疑問や考え、思いを共有し、進んで課題を解決していこうとする生徒								

3　ＲＧ授業研究の実施

実施日　　平成 30 年 11 月 21 日（水）第５校時
学　年　　中学校１、２、３年生　※ＩＣＴを活用した問題解決型学習
会　場　　本川根中学校
方　法　　町内の全教員が、いずれかの学年を参観し事後研修会を行う。

4　ＲＧ授業指導案の蓄積

(1) 学年担当の教頭が保存する。
(2) 校務支援の共有フォルダ活用について検討する。

P

平成 30 年度川根本町教育会の重点目標
豊かな人間関係を築き、未来に向かって高め合う子どもの育成
実践指導項目１：未来の自分や町を知る（自己理解、環境学習等）
実践指導項目２：未来の自分や町を表す（知識、言語力、表現力等）
実践指導項目３：未来の自分や町の実現に向かう（体験活動等）

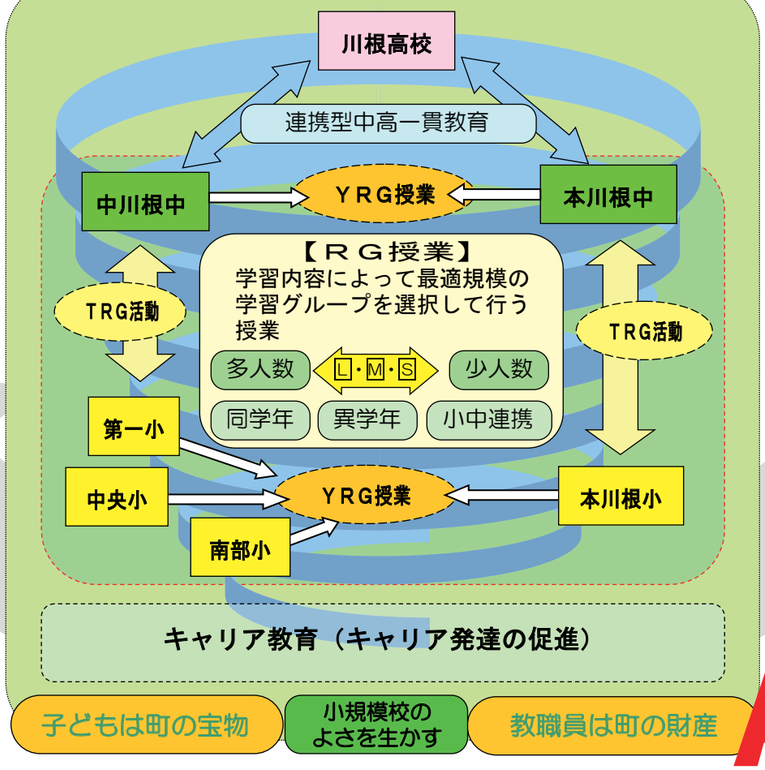
【ＹＲＧ授業の目的と指導形態】
(1) 教職員を最大限に活かした**最適人数**による授業実践
　ア　ＹＲＧ授業の目標と児童・生徒の実態を踏まえた**最適人数**の設定
　イ　学習内容と人数に応じた指導体制と指導形態
(2) 教職員一人一人の指導力の向上

【ＹＲＧ授業の研究内容】
(1) 単元・題材等の選択と指導計画の作成
(2) 川根本町ならではの教材活用及び教材開発
(3) 全国学力学習状況調査結果に基づく重点指導事項の設定と共有化
(4) ＩＣＴ機器の効果的な活用

【ＹＲＧ授業で期待される効果】
・多様な学習経験　・適度な緊張感　・一つの節目としての楽しい授業
(1) 学力向上
(2) 自尊感情、自己有用感、自己効力感の醸成
(3) 学ぶ楽しさの実感（「できた」「わかった」の蓄積、積極的な学習態度、活発な意見交換）
(4) 学校の枠を越えた新しい人間関係の構築（人間関係の固定化を防ぐ機能）
(5) 目的に応じたＩＣＴ機器の活用方法習得、情報モラルの理解と実践

川根本町学力向上ネットワークプラン構想図

～キャリア教育を基盤としたＲＧ授業～



A

○ＲＧ授業においても、ＩＣＴ環境の積極的な活用を推進する。
○小学校では「生活」「総合」「学活」のいずれかで
　中学校では「技術」「総合」「学活」のいずれかで
ＩＣＴ機器の操作技術の習得（習熟）や、情報モラルに関する授業を計画的に行う。

D

ＲＧ授業の実施（教務主任、各学年の責任者、授業者）

1　ＲＧ授業年間計画（○自校給食、●弁当）

月	小学校				中学校	
	RG 研修	低学年 RG	中学年 RG	高学年 RG	RG 研修	RG授業
4	18 日(水) 14:00～				12 日(木) 15:30～	
5	2日(水) 15:30～	16 日(水) 本　小③○	16 日(水) 南部小③○	17 日(木) 中央小③○	2日(水) 15:30～	7日(月) 本　中⑤●
6	13 日(水) 15:00～	15 日(金) 第一小④●	15 日(金) 本　小④●	14 日(木) 南部小④●		28 日(木) 中　中⑤●
7	27 日(金) 8:30～	9日(月) 中央小⑤●	9日(月) 第一小⑤●	10 日(火) 本　小⑤●	27 日(金) 8:30～	
8						
9	5日(水) 15:00～				21 日(金) 15:30～	
10	24 日(水) 15:00～	16 日(火) 南部小⑤●	16 日(火) 中央小⑤●	17 日(水) 第一小⑤●	29 日(月) 15:30～	5日(金) 中　中⑤●
11		15 日(木) 本　小⑤●	15 日(木) 南部小⑤●	16 日(金) 中央小⑤●		21 日(水) 本　中⑤● ※授業研究
12	12 日(水) 15:00～					
1		29 日(火) 第一小⑤●	29 日(火) 本　小⑤●	29 日(火) 南部小⑤●		
2						

2　特別支援学級に在籍する児童・生徒の参加

(1) 実施するＲＧ授業の内容等から参加する授業を決定する。
(2) 可能な限り参加できる授業を計画し、各学年の年間計画に位置付ける。

3　ＴＲＧ活動の実施

(1) 小中連携（ＴＲＧ活動）を推進するため「中学１年生と小学校５・６年生」等の枠組みを考え、中学校区でＴＲＧ活動を行う。

ＲＧ授業の評価・改善（教頭、研修主任、養護教諭、事務職員）

C

1　ＲＧ授業の評価の実施（教頭）

(1) 11 月までに定量的評価を実施し、ＲＧ授業の効果的な指導方法を検証する。
(2) 11 月に児童生徒及び教職員対象アンケートを実施し、成果と課題を検証する。
　※11 月 21 日（水）のＲＧ授業研究アンケートを含む。

2　ＲＧ授業の運用方法の改善（教頭）

(1) 運用上の課題が明らかになった場合は教頭部会を開催し、連絡・調整を図る。

3　児童生徒の健康で安全な活動の推進（養護教諭）

(1) インフルエンザ等の流行に対する対応策を検討する。（マニュアルの作成等）

4　効率的なＲＧ授業の推進（事務職員）

(1) ＲＧ授業で使用する備品、消耗品等の購入に関する課題を検証する。